

市民的不服従の 政治的現在



——ウィリアム・E・ショイアマン『市民的不服従』を批判的に読む

非暴力をもって法を超えた正義に訴える市民的不服従は、世界各地でますます重要性を帯びている。

このたび、リベラルの立場から市民的不服従の理論的拡張を目指した定評あるショイアマンの著作『市民的不服従』が人文書院から翻訳されたことを記念し、監訳者をお呼びして本書の批判的な読解を若手研究者が試みる。

発題 松本淳也（神戸大学大学院国際文化学研究科博士前期課程）

応答 森達也（神戸学院大学法学部准教授）
※『市民的不服従』監訳者

司会 井上弘貴（神戸大学大学院国際文化学研究科教授）
※『市民的不服従』共訳者

森達也

1974年生まれ。
神戸学院大学法学部准教授。
専門は政治学、政治思想史。
著書『思想の政治学——アイザック・バーリン研究』（早稲田大学出版部、2018年）。
翻訳にマイケル・フリーデン『リベラリズムとは何か』（共訳、ちくま学芸文庫、2021年）。

松本淳也

1997年生まれ。
神戸大学大学院国際文化学研究科博士前期課程。
専門はカルチュラル・スタディーズ。
現在はバスケットボールをテーマに、そのストリートカルチャーとしての文化的側面を研究している。
卒業論文『Mamba 4 Life -コービー・ブライアントの死とストリートの服喪-』（神戸大学、2022年）。



参加無料

2023年

3/29 (水)

14:30~17:00

@ 神戸大学
鶴甲第一キャンパス
E410 ※

※ 対面開催、オンラインでの配信は予定しておりません。
問い合わせ：松本淳也（gmlatsu@gmail.com）